京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵稅一ケ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所　京城新報社

鐵道政策の一變

寺内陸相の當時大藏を兼して着手せられたる鐵道國有は三十九年六月準備局開設以來約五箇年の歳月を費して昨四十二年遂に完成を見たりと雖も其の後の實績は未だ以て當初目的の半にも達せず却て鐵道院の特權と爭くせるの傾きあり内閣組織當時より鐵道政策の統一を理想とし夙に後藤男を總裁たらしめ漸次其の歩を進めしむると同時に靜に機の熟するを待ちて居たれども何分財政整理問題未だ其の緒に就かざりし爲目前しき理事の實行せられず只獨立會計制度及改良費繼續の擴張に止まりしが近來に至り會計整理も既に其の一歩を進め豫算案も大体に於て政府の方針を貫ずる克く修正を見ずして貴族院日割に於ては上院を通過すべき形勢となりたれば議會閉會後遠からずして鐵道政策上注目すべき現象を見るに至るべく既に改革方針は桂首相と後藤男との間に決定し居れる模様なり其の內容は極めて秘密に附せられ居るが爲其の詳細を知る能はずと雖も韓國及び臺灣に於ける鐵道を統監府及び總督府の手より全然分離して鐵道院の所管に移し以て鐵道全部の統一を遂げんとするものゝ如く只後藤男の計畫に對しては一も二もなく破壞を試みんとする大浦農相ありては閣議の波瀾面倒なれば如才なき桂侯は大浦男が日英博に出張の留守の中に此の問題を解決せん意向なり桂侯の眼中には閣僚中何人も存在せざれども例の國隊主義よりて一時大浦男を疎外せしものなれど寺内陸相の後援を恃む後藤男の得意想ふべしとは昨今中央に於ける一話柄なりと云ふ

臺灣產米の增加

臺灣島に於ける農作地總面積は田畑合計六十七萬六千五百餘町歩にして米、茶、砂糖の三者は之れ等農作物の主要農產なるが就中米作の如きは近來長足の進歩を以て發展し來り年々增收しつゝあり昨年度に於ける收穫高は二百三十萬石なるも今後益々增加の傾向を示しつゝあるも之の農作地は何れも多數は西海岸に限られ東海岸一帶の地は七十餘里に亘る沃野の空しく存するものあれば之れが開墾の曉には其の農作物も現今に倍加し其の米作の實收穫高も優に五百萬石以上に上るべしと云ふ

●兩捕鯨會社の契約

東洋捕鯨會社は韓海の鯨漁權讓受の件に關し淺野總一郎氏等の經營せる日韓捕鯨と交渉中の事は既記せしが爾來東京に於て東洋の岡十郎氏等は專ら奔走中にて概要左の如き契約は淺野氏との間に既に成立したりといへり

一、日韓會社の韓國に於て享有する捕鯨權を東洋捕鯨會社に永久行使せしむるが爲め從來捕鯨船を有せざりし日韓會社に對し東洋捕鯨會社の捕鯨船一隻乃至二隻を使用せしめ收益の四分の三を東洋に四分一を日韓に配付する事

一、前項日韓會社に使用せしむる捕鯨船は東洋捕鯨會社の使用船二十艘の内二艘の借入船を利用する都合にて其の形式は右二會社の共同事業とするか又は兩會社の賃貸契約とするかは法律上の簡易手續に依る由にて右二艘の使用船には農商務省よりの借入船ニコライ、オーンの二隻を同省の希望により其の方面に差向くることゝなるべしと

●我實業家の清國行

我實業家の清國訪問者は東京は近藤廉平、大橋新太郎、大阪は土居通夫、京都は島津源藏、神戸は瀧川辨三の諸氏に決定し橫濱、名古屋は未定なり出發の時期其內容は未だ詳細ならざるも近々東京にて集會し決定すべき機樣なるが出發は七月中旬なるべしとの說なり

地方通信

▲平壤通信

▲牛皮と其輸入稅　平壤市場の牛皮相場は昨今小皮二十七圓五十錢中皮二十三圓五十錢大皮牝二十七圓五十錢同牡三十二圓なるが出廻薄く二三商店が昨冬より買當へたるものを船便にて阪神地方へ仕向けつゝあるに過ぎず但し大皮は主として安東縣へ輸送せらる目下大阪相場は小皮三十六圓中皮三十二三圓大皮三十內外を唱へつゝあり而して日本內地にては牛皮の需用增加せるも供給之に伴はざる爲め大阪に於ける西濱町皮革組合は牛皮輸入稅免除を請願し衆議院にては其の請願を容れ貴族院にては尚は審議中なり因に日本への輸入稅は百斤一圓三十錢位に當りしが之を免除せらるゝに於ては百斤に對し約一圓十錢餘の韓國輸出稅のみ支拂へば足ることゝなるを以て免稅案可決して成るの曉に至らば今後韓國より日本への牛皮輸出は大に增加することゝなるべし

▲大同江初航延期　平壤鎭南浦間の大同江航行小蒸汽船平安丸は初航を十六日より開始する筈なりしが都合により十九日に延期したる由なり

▲黃州市民の情況　從來黃州に於ける穀物の取引は市場に於てのみ爲し來りたるが近時穀物仲買商は市場稅及び運搬賃の關係上市日に販賣者の來るを待たず之れを途中に擁して買收する爲め販賣者は自然市場に足を踏入れず其の結果は市場に衰微を來たし旅人宿、酒商、飲食店、其他の市場附屬營業者は是れより受くる營業上の打擊甚しく穀物の價も亦騰貴し邑內貧民中には食料買入れに窮するもの有り玆に於て去る八日黃州區內頭民五名總代に市場に關係ある是等の韓民約四拾名黃州警察署長に右の事情を具申し舊慣を保持するやう訓示取締方を請願せり依て同署長は翌九日各穀物中買人を呼び出し右の始末を語り穀物買入れは從來の通り市場に於て爲し舊慣を保持するやう諭示せるに各仲買人は同業者一致の態度を執るに於ては異議なしとのことなりしかば去る十一日の開市には警察署より巡査を穀物放賣者の通路に派して市場外の買入れを警戒せるところ一の違反者なく邑民も大に滿足の体なりしと

文苑

▲女性の四季　甘醉道人

◎秋

つるしさげたるねやの內
すやすや眠る幼な兒を
餘念もなげに打守り
物思はしき母そある
是れに上こす物とては
あらぬ我が身の恩愛に
溢るゝ思ひいつしかに
顏に笑ゑばふくませて
わしと彼の女は叫びたり
此處に眠りし此子こそ
智育德育体育も
なに不足なく受させて
智識才能何にひとつ
劣る事とてあらなくて
すべて諸人に打優り
天晴れ天下に高き名を
とゞろかすべき青年と
育つる事のあたひなば
わが身の幸ひ如何にぞや

日本銘刀傳

第八十席　邑井一講演

そこで藤太は聞いて　藤「願ひとは、何んの頼みか知りませんが、私の身体に引受けの出來ることは、否やとは言はない　行「其處を見込んで御願ひでござりますする外ではございませんが、實は私しの師匠が鎌倉から參つたんで　藤「オヽ成程師匠さんは鎌倉へ行つて修業して、此方へ歸りになつたんだ、其の師匠さんが何か鎌倉から來なすつたのか　行「ヘエ、夫れが京都へ參りまして、歸りに中仙道を信州の諏訪へ廻つて、此方へ鑑を取つて參られたので　藤「エーさうか　行「夫れで師匠が此體に大難に掛つて居るので　藤「一体其の大難と云ふのは、何う云ふわけで　行「ヘイ貴方だから何も彼も打ち明けて話しをしますが、私の師匠の祐實と云ふのに、私の兄弟子の祐廣と云ふ者がございました、其の祐廣の悴が、今度師匠の名前を襲ぎまして、祐實と云ふ銘を切つて、師匠と同樣の刀鍛冶を致して、こりやア年は若うございますが、私から見ると大したもので、是れに何で祐實の名前を讓つたかと云ふと、兄弟子の祐廣は師匠のために生命を捨てゝ居るので　藤「成程　行「御番鍛冶に成る成らないの爭ひで、鎌倉の大進坊佐慶其の實は甥に三郎長義と云ふ者があつて、伯父の大進坊を京都の御番鍛冶にさせやうと云ふので、私の師匠祐實が京都へ上つて以迚も不可と云ふ考へから、私の師匠を殺して伯父を御番鍛冶にしやうと云ふことから、其の時に兄弟子が代つて三郎のために、殺されたのでございます　藤「そりやア氣の毒なこと　行「そこで又た京都へ行つて首尾よく御番鍛冶になつたのも、實は兄弟子の手引がありましたから、技術の善惡に拘はらず、師匠が御番鍛冶になつたので、其の祐廣の悴であるから、祐實と云ふ名を襲がしたのでさうしたら、兄弟子祐廣が冥土で浮めるだらうと、此りやア師匠の考へなので　藤「夫りやア誠に結構なことだ　行「愈々さう云ふことに成つて見りやア、讎討ちは俺がしてやると云ふので、師匠も濤太郎に力を入れて居りました、然るに諏訪の原に於て、三郎の居ることを聞き出して、漸々容子を尋ねて見ると、鎌鍛冶德兵衛の許へ足を落付けて居る惡漢三郎、彼れが大進坊の甥と云ふことは確かに分りました　藤「成程　行「で私方へ師匠が乘込んで能く相談をして、三郎を生捕つて頂だかうと斯ういふ積りでございました、すると早くも先方が其のことを聞きまして、此方へ追ひ掛けて來ると云ふ一件なので、然も惡漢を狩り集めて五人連れで、私の師匠は三人連れ、誠に危ぶいところで、何うか此の難を免れるやう、願くば三郎長義を生捕つて、鎌倉へ連れ戻り、奉行の手に掛けて、祐廣の無念を晴してやりたいと云ふ師匠の考へ、余り充分な願ひのやうでございますが、貴方が引受下されて、ヨシヨシ、然う云ふわけなら俺が萬事引受けてやらうと請合つて下されば首く參るのでございますが、如何なものでございませう　藤「成る程、此方が確かに引受ける、夫れにやア師匠の思ふ所、其の濤太郎とか今の祐實とか云ふ人の無念の晴るやうにしてやらうから心配しねえやうに　行「然やうなら宜しくお願申しました何分共にお引受けを」と此れから祐行は立ち歸る其の歸りを待ち構へて居る、祐興、祐實、廣光此の三人の者に右の話しをすると三人は雀躍をして喜んだ、素より此方は刀鍛冶にして惡漢を相手にして切合ふほどの力はない、人を殺す刄物は作るが、人を殺すと云ふ腕は些業しないから、其樣な惡漢に掛つて、千金に替へ難い身体を失なつてはならん



何んな奴が追掛けて來るか知れねえが、此の天狗の藤太が請合つた以上は、大丈夫五人や十人や廿人の木つ端野郎が來たと云つて、此奴は引受ませう　行「左樣なら何うぞ　藤「宜うございます、私が引受けませう、御心配なさらないやうに、夫れおやア知らん顏して居なさるが宜い、お前んとこは三郎は知らないんだらう　行「夫りやわ先方では知つて居やうが、私の方ぢやア一向存じません　藤「夫れなら大丈夫だから、た前の家へ潜匿つて表へ出ないやうにして置きなさい、俺が巧く計略で其の奴等ア引摺込んで、三郎長義と云ふ奴は

愈々其の手筈を致しまして、藤太からの沙汰を樂みにして居る

京城新報

大隈伯の外遊説(三)

今の時に於て國民上下の希望

明治政府の我對外政策は伊藤、大隈の兩人に依つて立てられたもので我外交が此兩人の肩上に在つたことは前回に述べた通りであるのである、尤も右兩人が外交上に於て盡した點は何れを優れりとすべきでないが其持分を仔細に檢分すれば**大隈**は常に外交上の**大勢を作り伊藤**は常に**實行**の任に當つて來たのである、勿論時として大隈自身が實行の任に當つたことが無いでもないがまづ大體から云へば大隈の大勢作造伊藤の實行と云ふのが本當の所であつて此兩人が各自其持分を働きたることに因つて我外交が兎にも角にも今日の狀態に進み來つたのであるのである。

維新の鴻業は一に勤王の名の下に大同團結的に**諸元勳總掛り**で成遂げられた、其狀恰も米合衆國獨立當時の如きものがあつた、幕府を倒したる維新の革命は英國の覊絆を脫したる獨立戰爭と或意味に於て同じのものであつた。**一の共敵の前**には大同團結は必ず出來る、英を敵とせる獨立運動には米の諸藩は皆均しくワシントンの命を聽いた、併し一度目的を達した後には大同團結は自然に破るゝことゝなつた、ヂッフアソンとハミルトンとは兩立することが出來なくなつた、デモクラット黨とレパブリカン黨とが現はれることになつた、維新の際に於ける薩長土肥何れ劣らず大業に翼贊したが、併し一度目的を達した後には大同團結は自然に破るゝこととなつた、彼の征韓論の破裂の如きは詮ずるところ元勳同士の軋轢があんな形式に因つて發表されたに過ぎなかつた。

伊藤と大隈とは元勳中の新智識であつた、新政の畫策には何時も兩人が與かつて居つた、世人の兩人を見ること異身同体であつた、大隈は半ば立憲政体を樹立せんが爲に半ば元勳間の情弊を打破せんが爲に**有栖川大宮殿下を戴いて第二の維新**を策せんと試みた、此計畫には伊藤も勿論參加して居つた、併し理論よりも實行を主とする彼は新計畫の到底遂げられざるべきを看破して大隈と斷つた事は明治十二年東北御巡幸の際に起り明治十四年に至つて大隈は餘儀なく野に下ることとなつた、爾來世人の言ふ所を以てすれば宮中に於ける大隈の御覺はあまり目出度くないものだツー

だ、併し元氣なる彼は其身在朝と在野を問はず一意專心國事に勉め對外政策の發展に勉めて來た、其甲斐あつて彼は懸い政權を握つたよりは、より以上の働きを爲し世人が目して逆境に在りと稱する間に五千萬衆を代表すべき**世界的巨人**となつた、伊藤偉らし山縣偉らし井上、東鄉亦偉らし而れども彼等の偉らさは**交換價格**にあり、大隈の偉らさは**實價**にあり種々の情實と因緣とを離れて世界の市場に巨人の評價を得たる伯大隈は眞に現代に於ける**活ける我國寶**であるのである。

東京電報

▲紡績業者の大會

從來大阪にのみ開く例なりし全國紡績三十五會社の代表者よりなる大會を來四月東京に於て開くに決す(十七日)

▲殖民地研究會組織

滿韓樺太及臺灣に對する各般の調查研究を重ね學術的に殖民政策の確立せん目的にて新渡戸、岡松の兩氏を始め學者中に研究會設立計畫あり來月早々具體的に組織を見るべく追々政府にも交渉し如上目的の貫徹に勉むべしと(同上)

▲天皇陛下の御滿足

我陸軍視察の爲め濤貝勒殿下來朝の公報達したるを以て寺內陸相は直に參內大元帥陛下に奏上したるに陛下には最も御滿足に思召され萬事便宜に與ふべき旨御沙汰ありたり(十八日發)

▲貝勒殿下の歡待

貝勒殿下御滯京中の接待左の如く決定したり(同上)

▲廿九日午前參內謁見午後小村外相主催の晩餐會▲卅日芝離宮午餐會淸國公使主催の晩餐會▲卅一日井口陸軍大學校長の午餐會寺內陸相主催の晩餐會▲四月一日奥參謀總長主催午餐會後藤遞相主催晩餐會▲四月二日南部陸軍士官學校長主催午餐會閑院宮殿下主催晩餐會▲同三日木下野戰砲兵射擊學校長主催午餐會東京市主催晩餐會▲同四日芝離宮午餐會午後殿下留別の宴會▲同五日淸國公使館主催の午餐會▲同六日御退京

▲滿鐵社債利子保證

政府は滿鐵社債四千萬圓に對する利子保證の件を本日衆議院に提出せり(同上)

▲外米稅は原案通

本日貴族院に於て關稅案中穀類、香水、藍は原案復活し其の他は委員會修正通り可決、警部補退隱料及扶助料も可決せり(同上)

▲外人土地所有可決

本日衆議院に於て外國人土地所有法案は政友會の修正通り可決し北韓輕便鐵道改築公債の件は原案通り可決せり

▲安奉線の大工事

安奉線改修工事は昨年十一月以來沿道の土地買收及主として隧道の工事に從事し居りしが本年に入り既に寒氣も減じ土地の凍結も解たるを以て旬日後には大工事をなすの準備中にて工事請負業者一般は北淸の苦力を傭入るると同時に本邦內地よりも數多の希望者を雇ひ入れつゝあり(同上)

▲日米同盟の提議

日本は米國と非正式の同盟を結び提携して極東の平和を維持すべしと提議せりと云ふ(同上)

北京電報

▲直隸總督官吏淘汰

直隸總督陳夔龍は追々官吏の淘汰を行ふべし

雜報

有望なる朝鮮の墨鉛(上)

朝鮮に於ける墨鉛は近頃セーロン及びオーストリヤと共に世界の供給國として知られつゝある礦なるが、此程仁川在留英國代理領事イー、ハミルトン氏の報告並に其見本は、此の事實をして更に確實に立證したり、されば朝鮮產の黑鉛が新品商として市場に相當なる地步を占むるに於ては前途極めて有望なるものあるべし而して墨鉛礦業は事業の性質必ずしも容易にはあらずと雖も、經營宜しきを得ば、其需要は大なる利益を生むに至らん。

抑も墨鉛礦業は、概して未だ幼穉にして、他の礦業の如く一定不變の學理の基礎を有せざるが故に、動もすれば事業に蹉跌を來すこと無しとせず、之れ該礦業が標準的原則の缺乏より、延いて種々の危險を侵せるを以てなり、されば如何にせば此の業が比較的成功すべきやと云ふに、技術的方面の成功は勿論看過すべからずと雖も、また商業的關係も最も研究すべきものにして、其主要なる點は、生產費と市價との差違の問題なりとす、而して其の盈虧を定むるに千差萬別の狀態なれば經驗なきものより見れば、殆んど其矛盾に驚くが如き場合なしとせず、若し墨鉛にして銅、鉛、又は銀の如く一定の方法に由つて產出し、又一定の價格を以て市場に販賣せらるべきものならば、其の商業的關係たる、極めて簡易ならんも、墨鉛は其品質及價格に既に幾多の相違あるのみならず、用途に於ても亦價格を異にする事多し、蓋し墨鉛の生產費は概ね高價に上り、最も經濟的條件を以てするも尚ほ其利益の範圍狹少にして、動もすれば生產費過大に逸するか、品質の劣等なるかの爲に遂に事業を悲况に陷くこと屢ばなり、即ち種々の弱點を有すれども、經驗を有する人にして、放資前に熟慮判定を須ねて凡そ如何なる等級の礦石が有利なりやの着手せば、また有利ならざるに非ず

と云へる問題は、主として其礦業採掘鑛製及び販賣等の諸方法に依つて是を定めざるべからず、蓋し墨鉛鑛山に放資するものは、礦石の分析報告に依つて誤たるゝ事屢ばあり、是れ分析に提供する、礦石は多くは通常產出の品質よりは撰定せられたる見本的品質なるが故なり、朝鮮產出の墨鉛は、其形狀千差萬別なるが故に、韓國に於て該業に着手せんとするに先ち、其所有主は極めて緊要なる

一、鑛山技術上に關する件
二、製鍊及び市場に提供するの方法
三、販賣の方法

等に就て、技師の報告を得ることを忘るべからず、然るに普通黑鉛鑛山主は右の重要なる諸點に關し、綿密確實なる報告を有するもの勘なし、固より右の諸點の個々に關しては報告を得る事必ずしも難きにあらざれども、要點の凡てを一括したる意見を徵するの一事に至つては、極めて困難なり

皇帝皇后の動駕

韓帝及皇后には來る二十五日德壽宮に太皇帝を訪問さるゝ旨仰出されたり

統監病狀の不安

曾禰統監が病軀を顧みず國家の爲めに百萬貫の大行李を提げて光濟號に搭乘し東上の途に就きたるは一月三日にして爾來日を閲みする事七十有五日となれり人の噂も七十五日を過ぐれば自然疎遠となり何人も統監の病狀如何を語るものもなく更に一方日韓關係問題の前途は朦朧として春の夜の長閑けきが如く人は皆御用紙の所謂統監の在不在は政務の進捗に何等影響なしと云へるに醉ひ世は頗る太平の象あるぞ目出度し然るに此頃來東京より歸來せる人々の語る處によれば孰れも符節を合したる如く統監の病狀は依然不安の狀態に在りと傳へ茲二三週は勿論何時歸任の程も覺束なしと言ふ東上以來臺閣諸公と會見せしは僅かに一二回に過ぎずして折角の大行李も空しく片瀨の病窓に梱包其儘放置せられあるが如し流石の曾禰子も病魔の大敵には抗し難く如何に遺憾に思ひつゝあるべきか又廟堂の傾向は確定不動の方針なるも大行李の內容如何を見ざる以上は兎角斷行躊躇の色あり要するに統監病狀不安の間は先づ〳〵漢城の天地は無事太平なるべし

●國有藿岩處分決定

國有漁藿岩に就て毛藿採取免許出願者に對し水產局に於て調查を遂げたる結果該採取は慣行上概して前年八九月頃藿岩の手入をなし翌年二月より六月に至る間に於て之を採取すること宛も麥の播種時期と收穫時期と兩年に跨るが如き同樣の性質を帶びたるものなるを以て國有所屬藿岩に對しても既に前年に於て豫賣を受けたる上本年に於ける採取の爲め如上の手入を了したるものあり今年新に他の出願者に之が採取を免許する時は其被免許者に不當の利得を與ふるのみならず前年手入をなしたる者に損失を招かしむる結果となるを以て此際特に慣行を重んじ之が處分其他徵稅等は漁業法及同稅法に依らず前年豫賣を受けたる者の中採取希望者に對しては本年六月末までを期限として毛藿の採取を認許する事となれり

●三角航路と韓政府

淸津、元山、敦賀の三港を起點とせる三角航路に對する補助費は遂に豫算に削除せられたるより更に韓政府へ出願に及びたりしが韓政府にても北韓經營上其必要を認むるも現在の財政狀態にては到底詮議不可能なるべしと云ふ

●基督青年會の活動

基督青年會は百萬の教徒を得んと欲し頻りに運動中なるが今回五名の委員を選みて之に當らしむることとし法制局長俞星濬氏の如き最も熱心に奔走し目下先づ各部高等官に對し勸誘中なりと

●飛潑島燈臺點燈

關稅局告示第百〇四號を以て韓國西岸大同江鎭南浦飛潑島燈臺は結氷中點燈停止の處三月七日より點燈を開始せる旨を發表せり

●仁川民長の訓示

仁川岩崎民長は來る二十一日仁川在留の本年度徵兵適齡者百二十六名を招集して受檢其他に關する注意事項を訓示する筈なり

●排日新聞の押收

布哇發行新韓國報第八三號は治安を妨害するものと認められ發賣頒布を禁止し之を押收さる

●五百木氏を招待

國民同志會は十七日夕明月館に五百木良三氏を招待す

全道教育情態(續)

忠淸南北道及び全羅北道地方に於ては世の進運に伴ひ日に月に進步發展の狀あり各地の子弟は智能啓發を競ひ公立普通學校の如きは漸次登校者を增加するの盛況ありと雖も其他の私立學校に在りては一部を除く外校舍の不備維持費の欠乏經營方法宜しきを得ざる等に依り健全の發達を遂ぐる能はざるの狀勢あり然れども目下各郡とも地方費の補助に依り維持策を講じ居るが故に將來或は改良せらるゝに至るべし全羅北道咸悦私立普通學校は現時生徒の數約百名に達し其成績至て良好にして一月初旬より夜學を開始し毎夜通學者三十名ありて漢學、算術、日本語を教授しつゝあり學部に於ては同校の成績良好なるを認め公立學校同等の待遇を與へ理化學用器具及圖書等價格百七十圓の教育材料を備附することになれり、忠淸北道忠州郡內倉佼溪可興の三校は漸次生徒增加し隆盛の狀況なるが一月より三校とも一見學生たるを識別せしむる爲め生徒は全部斷髮し尚は服裝は韓服の儘にて黑地を着用せしむることに實施し居れり

慶尙南北道にては郡衙所在地には公立學校ある外各地は私立學校を設け努めて文明的教育を施さんとする傾向ありと雖も一面女子教育は今尚ほ等閑に附せられ郡會地を除く外全く普及せざる觀あり而して日本語の普及は刻下の急務なるを知り到る處の學校には日本敎師を傭聘し日本語を教授しつゝあり然れども學校維持費に窮し又適當の日本人教師の得難き等の關係より廢校或は休校するの止むを得ざるに至るもの往々あり寧海には昨年十月小學校を設置せしが同地の兩班連は兩班の子弟と平民の子弟とを區別せずして教授するは舊慣を打破する惡例なりと唱へ其子弟を通學せしめず更らに邑內松川洞に兩班の子弟のみを教授する學校を設立し其筋の認可を請はんとせしに郡守は其不文明にして時勢に適せざるを論したるも兩班連は之に應せず直接觀察道へ請願書を提出し其認可を得んと目下運動中なり

淸津附近の漁況

北韓に於ける春期主要漁の一たる明太魚は本月初旬より其漁獲を見るに至れり淸津半島西麓に七統東麓に六統の角網は何れも營々として漁撈に努めつゝあり從來淸津半島東麓一體の海面は明太魚漁に適せずと捨てゝ省みざりしに本年石川縣出漁船三四組之れに投網なしたるに其漁獲あること半島西麓に讓らず寧ろ其れ以上の漁獲量ありと云ふべき狀態を呈せるなり淸津附近の好漁場に富める今更ら喋々するの要なき處なるも未だ漁業發達の域に達せざるにより其精密なる調查をなして善良漁場を得んとする熱心なる漁業者なし多くは舊慣を採り居るのみ其他羅津浦、愉津に於て二統の魚網漁業者ありて盛んに明太魚鰊を漁撈しつゝあり更らに雄基灣を見るに四統の角網並に其東方浦項錨地西浦項地先に一統の角網建設ありて何れも鰊、明太魚、鰈を目的とせるなり本月明太魚の價は一尾六厘乃至八厘許りの相場なりし其他韓人手操網漁船四隻は淸津東海岸に於て日々漁撈に努力しつゝあり貝類に至つては魚島浦の牡蠣及び羅甚湾附近大津湾の地寄貝並に羅津灣浦の瀨戶貝等は盛んに漁獲せられ居れり本月中漁獲ありし魚類の金高大要左の如し

鱈四十圓、明太魚七百圓、鰊九十圓、鮭白三十圓、章魚三十圓、牡蠣百六十圓、瀨戶貝及地寄貝九十圓、鯨二百廿圓、雜魚七十五圓、計一千五百三十五圓也

本年明太魚の盛漁期は三月より四月中旬までならんと思料せらる本月末より漸く其漁獲の多きを見るに到れり尚ほ近日に二三統の魚網投網は增加せんとせるあり其他淸津港官民有力者により北韓漁業奬勵組合なるものを組織し先づ第一に沖手操網、破手操網を指導奬勵し將來は打瀨網、焚寄網其他當地方に於て未だ營める者なき新漁法を以て漁業を試みたるに成績良好なるを博くの漁業者に知らしめ之れを奮ませ以て多くの漁利を淸津港に集注し海產をして遺憾なく發達せしめんとして本月廿五日を以て其の設立を見るに至れり之れ北韓漁業に大なる發展力を與ふる原動と云ふべきなり

●豫算案調查の終了

仁川居留民團四十三年度歲出入豫算案は調查委員七名の手にて審議精查中なりしが十八日を以て結了せし筈なれば近く再度の民會に附議せらるべし

●稅關鑑定價格調查

仁川港に於ける綿絲及び牛皮の鑑定價格は他に發し高率に失するの處あるを以て目下仁川商業會議所に於ては精密なる調查を遂げつゝあり

●韓米輸出販路調查

仁川力武精米所は韓米をシャトル及び獨逸に輸出するの計畫あり運賃其他の販路に關する調查を進行しつゝありと云ふ

●信夫理事官の任所

過日家族同伴にて上京せられたる仁川理事官信夫淳平氏は愈々在墺國帝國大使館一等書記官に轉任されたりと

●向田警視の出張

向田京畿道警察部長は管內巡視の爲め十九日仁川に至り其れより兩地を經て江華島に赴く筈

●宮館警視の出張

仁川署長宮館警視は向田警察部長出迎及び其他の要件を帶びて昨十八日乘砂に出張したりと

●中野副理事歸任 滯京中の中野平彌副理事官は十七日朝出發歸任したり

●佐藤理事の入京 開城地方金融組合理事の氏は十七日入京九州旅館投宿

●小松憲氏の入京 地方金融組合理事の氏は十七日入京九州旅館投宿せり

●名和勝氏の入京 鐵原金融組合理事の氏は十七日入京三日月旅館に投宿

●藤掛眞一氏入京 金城金融組合理事の氏は十七日入京三日月旅館に投宿

●高松理事の入京 瑞州金融組合理事の氏は十七日入京三日月旅館に投宿

龍山通信(十八日支局發)

▲守備視察のため高山地方へ出張中なりし第六師團參謀長佐藤大佐は十七日午前十一時四十九分三浪津發列車にて歸龍せり▲十八日午前八時五分南大門着列車にて菊地商工局長仁川より歸京▲軍司令部附林少佐十七日新義州より歸龍▲軍司令部附鑑井步兵大尉は暴徒狀況視察の爲め本日黃海道方面へ出張▲龍山民團にて連日開催せる豫算委員會は本夕を以て結了すべく而して二十三日頃民會を召集し委員調查の結果を以て附議する筈なるが多分三千圓位の削減を見るべしと▲龍山民團にては從來居留民の便宜を計り吏員を派し各戶に就て徵稅せしめ居りしも斯くては徒らに經費增加するのみならず徵收吏員にして萬一の過失を演ずることもあらば却て民團の眞意を誤解さるゝの恐れあるを以て來年度よりは納入期日前に納稅告知書を發し各自民團役所に納稅せしむべく民長は廿三日中に告知書を發する筈なるが納稅期は左の如し

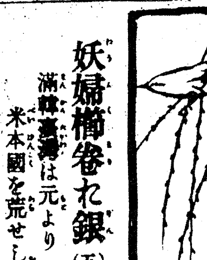
イ 戶別、土地、建物、營業、雜稅中年稅は 第一期五月十五日迄 第二期七月三十日迄 第三期十月三十日迄 第四期一月三十日迄

ロ 雜稅中月稅及汚物掃除料毎月十日

▲治外法權▼

國民の必要を痛いで作り揚げた義勇艦隊梅ケ香、櫻の兩船は使ひ途が無いので困つて居る樣だ、隨分無鐵砲な設計をやつたものと見へる、併し仕末に困る樣なら宜敷海軍省へ買つて貰ふがよかろう、ドウセ海軍省杯は道樂息子同樣大金を喰ふのだから▲嚴原代議士の東拓事業經營に關する質問演說は敵も味方も大に耳を傾けたそうだ、氏は最後に臨み宇佐川總裁は朝鮮人の末裔なるも遺傳的智識は其用を爲さず、吉原副總裁始め其の他の重立つ者は皆役人の古手なり朝鮮人と役人のみにて之の大會社の經營を如何に爲し得べき、吾人は東拓會社を以て單に故伊藤公に對抗する爲に桂首相勢力の道具たるに止まらしむるに忍びず、とて例に依つて大に皮肉つて居た▲一時世間を騷がした大阪力士放駒もトウ〳〵常陸山と手を切る機になつた、處が大坂の朝日山は放駒に對し師匠の恩を忘れた〳〵と頻りに師匠風を吹き廻はして居るが、元來親方が力士を養成するは自己の利益の爲めで、恰かも猿使ひが猿を仕込むのと何んの替はつた事もない放駒に借金もあらふが協會も彼れが爲め大分金も儲けて居るであらふ、然らば差引はゼロだ。

제361호 1910. 3. 19.



妖婦楢巻れ銀 (五)

滿韓臺灣は元より 米本國を荒せし女

先づ臺灣は淡水港へ上陸なしたる銀は其處に二箇月此處に三箇月と臺南臺北から樟腦產地の危險地へも這入込み何がな一財攫まむ者と種々なせしも一向に面白き事もなきより遂に基隆へと立戾り玆に暫く足を止むる內フト關係したは足波某と云ふ請負師にて此の男と相談の上臺灣も最よ見込なしと見切を附け今度は大連へと便乘し安奉線の工事目的に乘込しも是又思はしき工事もなきのみか情夫の足波に些々小財を取出さるゝより道樂男と何日迄も關係して居ては遂に自分の身の破滅と可い加減に置いてけ堀の腰を揚げ鴨綠江を渡り韓內地に踏み込みし昨年冬の末なり然れど北米より香港附近を股に掛け荒金攫んで來た銀の眼には恐ろ不穩の韓國では仕事の出來樣筈なければ怎うせ斯う來た序次の事に一應日本に立歸り其の上の思案もあらんと歸國の心意で釜山迄降つて往きし其の夜の事なり幾合列車の一等室にラツコの毛皮を裏に卷き葉卷の烟を悠々と吹きつゝありし一人の男の眼光の何となく心ありげの素振りあるより此奴可い椋鳥ござんなれど頻りに無言の秘術を盡す內釜山驛下車の頃にはまんまと其の男を生捕し一夜旅館の旅枕の逐に深しい縁となつてラツコの男を丸め込むに至りたりそもや此の男と云ふは鎭海灣要塞の御用を勉むる○○と呼ぶ大金持ちなるが憐れやすツかり銀に魅せられ到々釜山より鎭海灣迄連れ往きて一時外妾として銀を圍ひ置たるが或日偶然にも銀の素性を聞き知つたる○○殿の驚きは如何許り其座女とは知らずに圍つた自分の過り直樣手を切り追つ放さんと夫れとは告げずに銀に話せどドツコイ銀の聞くべや玆等が此方の脫ひ處約束通りの正妻にと逆に强請つて動かばこそ流石に○○も一時は此銀の處置一つを持て餘して居たりけり。

暴徒の中に小兒
▽可憐なる其の行末

前月廿六日午前八時醴泉郡普門面山城里に二十八名より成る暴徒の集團顯はれ洞民安周萬、安老潤を慘殺し安貴一安相潤、安永卓の三名に重傷を負はせて逃亡せる事件あり其暴虐の慘なる云ふに忍びず正に之れ鬼の如き所業と云ふべし然るにこゝに此の鬼の中に万綠叢中紅一點とも云ふべきは三人の小兒ある事なり小兒の守りに六十前後の老人一名居たりそもそも該兒は如何なる故ありて暴徒の手に育てられつゝあるにや他より小兒を人質に拉去せるものなるにや又は暴徒の中に小兒の父母ありや然らば該兒は暴徒の卵なり何れは法網に羅りて廻る因果は覿面に人を殺したる報ひにて已れ梟首臺上の露と消へし後に殘る暴徒の子は憐れ至極なり

侠夫賊彈に殪る
▽婚禮の晩に暴徒襲來

去る十日江原道原州郡緒田面加南里(原州の北一里牢寨川街道の横)に邑內屈指の兩班にて韓人間にも相當の信用ある同里一統九戶朴昇善方に暴徒三名來襲し各自武器を携へ闖入したるが恰かも當夜朴方にては養子の婚禮をなしその盛會を開き媒介人はじめ親族知巳七八名を招待して翌午前三時頃一同寢に就き居たるに突然暴徒襲擊して各自を毆打して半死半生の目に遇はせ金品約二十圓を强奪し悠々と立去りたるを村內にて義侠家の聞へある同里一統六戶李範善(三五)がこれを認め直ちに村民一同に急を告げ大聲を發して追擊したるに暴徒は衆寡敵せざるを見て所持せるモーゼル式銃を以て義侠の李を目掛けて一發放ち李の胸部に貫通銃創を負はしめ逃走して行衞不明となりたる騷ぎに村民は極力その行衞を搜索追跡せんとしたるも完全なる武器とてなく此の旨原州憲兵分遣所に急訴したれば當直憲兵は鈴木班長指揮の下に直ちに現場に駈付け詳細取調べに着手し一方大野上等兵の率ゆる別働隊はその附近を隈なく搜索したるも遂に踪跡を晦まして逮捕に至らず小栗管區長は大に憤慨し非常線を張りて嚴重搜擧に努めつゝあれば何れ近日中に快報に接すべし尙負傷者李は韓人に稀れなる剛膽の男にて朴の隣家に住ひ當夜第一着に暴徒を追擊して村民に急を知らしめたるが負傷被我が憲兵隊の討伐に來りたるを見て負傷をも氣に掛けざるものゝ如く憲兵に向ひ賊徒の逮捕を賴むと連呼せる由目下醫師の治療を受け居れるが餘病併發せざれば生命には別狀なかるべしと云ふ

●一ツ附け名刺の事
▽附け文では無御座候

昔は附け文とか申て源氏の物語りにもいと優雅やかなる者の一つと爲されしが星移り時が改まればいやはや何とも彼んとも電信電話は愚な事其の昔船が山登ると歌に唄ふた其の船が今は山走る地下鐵道西と東の三千里風の波動が物を云ふ無線電信は元より云はず月の重量が何匁で大彗星の尾が見ねた其の尾の長さが何十里と尺やカンくで計つて來た樣な講釋擬より金の沙汰と云ふ地獄見物極樂往生天國觀覽も追つ附け間のない今の世の中なれば一つ附け名刺の事と云つた處が別に不思議はない答ぢやが毀が取持つ縁かいなの闇夜に出來る戀ならで此れは高等演藝館の活動寫眞を見物中それ畫が動く暗まぎれ何にも知らぬ隣の娘のれ手々を捻り上げ『ねい、乾度ですよ』と濁りよがりのその袂へ默つて入た一つ附名刺の御本人樣と云ふは住所姓名麗々と

> 龍山鎭避官舍八十五號六
> 嘉戶治三郎

ところ記されたるが一層の事に生年月日の印鑑附き一つ附け謄本の事とでも爲た方がまだしも廿世期の文明流かと一筆敬へて置きませう

●良民三名拉去す
▽なんの爲やら不明

前月廿四日の事慶北醴泉郡普門面基洞居住黃周一(三〇)吳一天(三〇)方に賊徒大勢にて侵入し右兩人を拉去し次で同夜十時同面知董谷里居住朴昇漢(三五)を拉去す

●鳥軍の大合戰

九日埼玉縣秩父郡大宮町秩父神社境內の杉林に於て九日午後五時頃數千の鳥集合し東西に分れて合戰を始めたるが東軍飛ふしと見る間に三四十羽の鳥何れよりか飛び來りて東軍を援助し爲に西軍は散々敗北して六時頃四散せしが境內には死傷せる鳥數十羽墜落し居れり

●韓人の盜難

仁川內洞居住の雜貨商金興俊方に昨日午前二時頃一名の賊忍入り現金百四十圓を窃取して逃亡せし旨訴出に接し其筋にては犯人搜索中なりと

●局員の持逃げ

元西部線運管理局員なる小森常三郎と云ふは同局計理員と稱して關西線玉寺驛にて收入金を詐取し渡韓なしたる形跡あるより該手配を同驛長より南部署へ願出でたり

●猩紅熱病者

龍山鎭避官舍五七の二居住愛知縣生れ笠井さよ(十九)は去十五日より發熱十七日に至り猩紅熱と診定されしが其午後終に死亡せり

●客引告發さる

仁川仲町一丁目原金旅館の客引なる愛媛縣生れ坂本直藏と云ふは一昨日仁川驛構內に於て滊車降客に對し五月蠅き程附き隨ひつゝ强て宿泊を勸め居たるを警官に見咎められ直に告發さる

●龍山の迷兒

十七日午後一時頃龍山本町二丁目の通りに四歲位の男兒途に迷ひて泣き居たるを通り掛りの一女學生が認め引連れて警察署に屆出でたるに依り警察にて取調べしに龍山停車場前人力車帳場太陽組挽子佐々木傳一長男俊夫なること判り父親を呼出して引渡さる

廓のうわさ

▲新町遊廓の近況は頗る全盛を極め居る樣見受られ候頃しも花笑ひ鳥歌ふ好時節人の心も浮き立てば或は當然の事かと存候▲その全盛の結果として老朽淘汰廓員新顏の增加も是又當然の要求かと存被候▲先づ一昨十八日より增員の新顏として張店に顏突き出したる連中と云へば次の如くに候▲本年二十八歲の本名飯村なか娼名梅香と呼ぶ姥櫻產地は茨木の片ほとりと承り候▲次は毛唐に縁の深き橫濱產の高畑かね藝名月子と呼ぶ二十二歲の花盛りに候▲次は生つ粹の江戶ツ兒親讓りの本名が大山ちよと云ふ二十四歲の跳へ向き源氏名は艶に婀娜たる紫となん呼び侍る由▲此の三人は等しく第一樓本店のれん抱へと御承知願上候▲次は第一樓支店の新妓生れ產地が二上りの芝三界は增上寺の佛臭い朱門のほとり藝名が出兵當泣かせた梅川とか本姓は高橋はな事當年二十三歲と聞及候▲此れは些と方角違ひの三味線肌以前は龍山北海樓の抱ねにて桃太郎と稱し居たりしやに候が此度都合あつて當地清華亭へと鞍替ね藝名も好いたらしい蝶子の蝶ちやんとか行年ではない生年は明治二十二年の末つかた本名が佐伯ひさとて生れは藥の名物寫越中富山の千金丹▲そこで一昨日の新町遊廓登樓客はと云へば八十五名の遊客に對して其の消費金高四百四十一圓〇九錢に御座候▲此れに引替へ仁川敷島廓の寂れ方は誠に氣の毒千万にて嫖客の數は廿七名水揚高の八十圓八十五錢とは不景氣く

目と耳

▲壽座　毎夜連日の大喝采を拍しつゝある曾我の家一座の本晩の出し物は左の如くなるが昨夜の勸進帳は大受けれ最負の注文とあつて本晩も續け打とさまる

第一番目	御祝儀大入祝ひ	一場
第二番目	女車夫	三場
第三番目	滑稽裁判とゝ退治	四場
第四番目	工女の色糸	二場
第五番目	喜劇　十八種の內勸進帳	

▲歌舞伎座　同座の活動寫眞本晩の替り番組は左の如し
●魔術不思議の鞄●悲劇目前の天罰●西洋浦島太郎●世計らんや爆烈彈●忠臣藏全部●月下の波濤●水滸傳●松島屋と八千代浪華の秋篠茸狩

▲京城座　同座にては開演一週年の祝を兼ね劇場の修理大小道具の改良より新顏俳優三名を加へ晴雨を論せず開演し倘入場者には景品進呈するとの事なるが本晩の藝題は『斷腸錄』全十場にして其の配役は
刑事山田政雄(伊井)子分八公(花井)牛若小僧金太(千葉)百足寅松(川崎)山岡小太郎(金澤)田舍紳實は百鬼れむら(桂木)乳母しげ(田中)小笠原義則(高山)陸軍步兵大尉近藤、本正寺住僧香州(高島)因果小僧留公(上田)書生武田勝(瀨)子分吉公(八嶋)高利貸山形三郎(秋田)小笠原さよ子(三好)山岡星五郎(美嶋)山岡星藏、遊人政五郎(瀨川)陸軍少尉日高剛(須藤)警部山本新一(管)

▲平民文庫▼

▲一昨十七日午後の事明治町の方から電鐵線路を踏み切つて長谷川町へ拔ける所謂支那町の入口の所に韓人の駄菓子屋がある其の店前に莚を敷いて五六人の清韓兒童が遊んで居る所へ明治町方面から移轉と見ねて雜具を積んだ荷車を日本人二人が挽いて來たが何うした機會か兒童の婚々として戲れて居るを見た彼れ等は又車を後へ戾した都合なく四歲許りの韓女の左の股を轢いた莚の上に挽き上げた▲アツと思ふ間も二度轢いた理由になる、女兒は聲も立て得ず泣き入つた▲其の子の親なるべし矢庭に抱き上げて賺すけれども泣き止まぬ痛はしさは見て居るに堪ねぬ▲然るに一方轢傷した日本人は其の親に向つて『此機所へ遊ばして置くからだ氣を注けろ』と逆捻食はして長谷川町の方へ去つた▲哀れなるは韓人である遂に泣き寢入りだ而して此の犬にも似たる一點惻隱の心なき奴輩は長谷川町の幾代と云ふ飲食店の隣家に引つ越して來た家の者だ▲而して此の獸の如き奴は此の曲事を敢てしながら自家に歸つてからの言ひ草が斯うである「アンな所にゴロくしてやわがるからだ」と氣の毒なことをしたとも思はぬのである而して此れが日本人であるのだから耻以て堪らない▲人の子たる予は切に其筋の嚴戒を希望する(風聞子)▲風聞子も偶にやア善い言を仰云るね(小僧)▲漢城府の蔘田事務官が土地家屋の賣買典當等の利害關係人を自宅に引見し請托を容れ其の役得は給料よりも遙かに多額である云々の投書は不穩の文字あるを以て沒とす(係)▲十七日の夜西小門通りの日の出亭へ四五人連れの客が登つて散々飲食した末が例の無一文ヤツサモツサの揚句其の中の一人が明治六年鑄造の五圓金貨を時計の飾りとしたものを外して抵當に置くと云つたが失れは鉛へ鍍金したものであつた(耻掻野郎)▲龍山鎭避官舍の某が高等演藝館で某婦人に戲れ袂へ名刺を入れた一條は本日の別項に委しく披露せり(係)▲滿月樓の鹿の子は兩親とも逃つて居るのだ相だが其の繼父が材木商を初めて失敗したので定まりの身賣り一件昨年四月から滿月樓に面を曝すことゝなつた顏も相當だし取り持ちも甘いと云ふので相應に賣れて居たが此の頃は少々不勉强の樣だが何うした爲かしらん(通行生)

吉凶鑑

本町五丁目　三一館判斷

三月十九日當二月八日五黃先負癸未定△一白●缺損を來し易し貸借取引保證引受留意すべし旅行新事見合せらるべし△二黑●婚姻共同組合結社に好し酒色に沈湎して業務の上に敗衄ある勿れ△四綠●不得要領に終らんとす旅行金談整理改革事勿擧らす△五黃●運たり酒色及投機的射倖的行爲を禁す△六白●快欣の日なり大抵吉家庭內に煩累起らんとす△七赤●仕官就職相談依賴等に恰當の日なり親しき間に衝突爭論わらん△八白●業務の上に逆施餌行ある勿れ子兒の事を謀るには吉△九紫●知己親族のため出捐若くは苦勞起らんとす其他靜事

京城居留民團公文

京城居留民團告示第四號

工事ノ執行物件ノ賣買貸借ニ關スル規則左記ノ通リ居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十三年三月十七日　京城居留民團民長　古城菅堂

京城居留民團規則第一號

京城居留民團工事ノ執行物件ノ賣買貸借ニ關スル規則

第一條　民團ノ工事ノ請負又ハ物件ノ賣買貸借ハ競爭入札ニ附ス但シ其ノ入札ノ金額豫定ノ價格ヨリ超過セシトキ又ハ入札者ナキトキハ三名以上ノ指名入札若クハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得豫定價格ヲ變更シタルトキハ更ニ第一項ノ手續ヲナスヘシ

落札トナルヘキ價格ニシテ民長ニ於テ不相當ト認ムルトキハ再度ノ入札ニ付スヘシ

落札トナルヘキ同額ノ入札ヲナシタルモノ數名アルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

天災時變其他之ト同視スヘキ急施ヲ要スル場合ニ於テハ前各項ノ例ニ依ラサルコトヲ得

左ノ場合ニ於テハ競爭入札ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

一、特殊ノ物件ヲ買入又ハ借入ヲナストキ
二、見積價格參百圓以內ノ工事執行並ニ物件ノ買入又ハ借入
三、見積價格百圓以內ノ物件ノ賣拂又ハ貸渡
四、官廳又ハ公共團體ヨリ物件ノ買入又ハ借入ルヽトキ

第二條　工事ノ請負又ハ物件供給ノ競爭ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスルモノハ其工事又ハ物件ノ供給ニ貳年以來從事シ現ニ居留民團稅若クハ直接國稅年額參拾圓以上ヲ納ムルコトヲ證明スヘシ

第三條　工事請負又ハ物件賣買貸借ノ競爭ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスルモノハ現金又ハ信用アル有價證券ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ其納ムヘキ保證金額ハ目的價格百ノ五以上ニ於テ民長之ヲ定ム

競爭ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハントスルトキ又ハ其ノ契約ヲ履行セサルトキハ前項ノ保證金ハ民團ノ所得トナス

第四條　民長ハ請負工事ニ付テハ竣工ノ後其工事ヲ監督シタル吏員又ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ契約ニ據リ工事既濟部分又ハ物件既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハントスルトキハ民長ハ之ニ檢査ノ吏員ヲ命シテ事實ヲ調査シ其調書ヲ作ラシムヘシ

第五條　前條第二項ノ支拂ヲナサントスルトキハ工事ニ付テハ其既濟部分ニ對スル五分ノ四物件ニ付テハ其既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●天氣豫報(自十八日午後六時至十九日午後六時)
南東風曇少雨
十七日(華氏)　最高溫度四七、五　最低溫度二四、八